

## 「東山梨教育研究第 58 号」の発刊に寄せて

甲州市教育委員会 教育長 保坂 一仁

「東山梨教育研究第 58 号」の発刊にあたり、東山梨地域の教育力向上のために日々ご尽力されている、先生方をはじめ教育関係者の皆様に、心より感謝と敬意を表します。

令和 2 年度から、小学校では新学習指導要領の全面実施が始まります。これからの 10 年は、情報化・グローバル化の加速度的進展や人口知能（AI）の飛躍的進化が見込まれ、予測困難な時代が予想されます。そのような中、新学習指導要領では、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に子供たちに育むことを改定のポイントとしています。

令和元年の中央教育審議会では、「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（諮問概要）の中で「Society5.0 時代の教育・学校・教師の在り方」が示されました。

○Society5.0 時代には、①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要

○教師を支援するツールとして先端技術を活用し、①地理的制約を超えた多様な他者との協働的な学び、②一人一人の能力、適性等に応じた学び、③子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学びを実現

○子供たちの学びの変化に応じた資質・能力を有する教師、多様性があり変化にも柔軟に対応できる教師集団

○「チームとしての学校」の推進

まさに、これから学校や教員が対応していかなければならない改革ではないかと思えます。

さて、東山梨教育協議会の研究の成果を収録した「東山梨教育研究」も、今回で 58 号目を数えます。教員をはじめとした東山梨に集う多くの教育関係者により紡ぎ続けられたこの集録は、いつの時代も、関係者の努力や思いを収めた資料的・記録的価値はもとより、東山梨の子どもたちのよりより成長のために、教育三者と P T A や行政などの教育関係各者が、主体的、対話的、協働的、自治的に連携し、「OJT などを基本とする教員の資質の向上に資する組織的な研究活動」「専門性にもとづいた教員チームの構築」「学校を開き、保護者や地域の方々とともに進める教育活動」などを行ってきた歴史の積み重ねであることに改めて気づかされます。これは、今まさに進められている教育改革と意図を同じにしたものであり、そのような歴史に思いをはせるとき、先達の先見性と東山梨教育の歴史的な重みを感じずにはいられません。

「論語」述而篇に「子曰く、我生れながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求めたる者なり。」という言葉があります。孔子のような君子も道を求める際、昔からの教えを懸命に学んだように、この「東山梨教育研究」が教職員の皆様に大いに活用されることを願っております。

結びに、東山梨教育と教育関係各位のご尽力に敬意を表すとともに、益々のご発展をご祈念申し上げます。